



発行所
八尾市消防団
発行責任者
八尾市消防団長
小角道男
八尾市高美町5-3-4
TEL(072)992-0119
FAX(072)992-7722
H24-161



消防出初式

平成25年1月14日(月)大阪府中部広域防災拠点において、消防職・団員455名、消防車両36台が参加し、八尾市消防出初式が挙行されました。

当日は、前夜から降り続いた雨が止まずに、式典だけの出初式となりました。

式典は、屋内という事もありとまどいながらも身の引き締まる思いで国旗に対する敬礼、殉職者に対する黙祷の後、市長式辞、優良消防団員の表彰、市議会議長による祝辞が行われ、最後は大辻消防長の答辞で幕を閉じました。

本年は、徒歩部隊、自動車部隊の分列行進、一斉放水等の消防の勇ましい姿が披露出来ず寂しい出初式になったような気がしますが、新年を迎え、我々消防団員の役割を各々が改めて認識し、積極的に日頃の活動や訓練、更に地域の方々に防災意識を高めていただけるように、取り組んでいく心を新たにしたい一日となりました。

山本分団 竹下 健一

新たな決意



八尾市消防団長 小角 道男

皆様には、平素から地域の安全・安心を守るため、昼夜を分かたず消防防災活動にご尽力を頂き、心から感謝申し上げます。

さて、一昨年の東日本大震災では、発災直後から地元消防団員が目覚しい活動を行い、国民の皆さんから高く評価されました。

しかしながら一方で、たくさんの消防団員が殉職されたことは、誠に残念で痛恨の極みであり、二度とこのような災害が発生しないよう願うばかりであります。

この東日本大震災以来、各地で大規模な地震発生、各地で指摘される中、昨年の7月に九州北部を始めたとして日本各地で豪雨による大きな被害が生じ、日本中、様々な災害がいつでもどこでも起こり得るといふ覚悟をしなければならぬ状況であります。

こうした中、八尾市消防団としても、様々な災害に対応し

域防災の要としての重責を果たすため、平成25年度は、高安分団大竹分隊及び志紀分団老原分隊の消防ポンプ積載車の更新並びに高安分団大竹分隊の消防機械器具置場の建替等、装備の充実や施設の整備を行ってまいります。

また、本年は八尾市消防団に初の女性団員が誕生いたします。

女性の目線にたつた新しい一面から、より一層地域と密着した消防団活動を行い、地域防災力の強化・充実に努めてまいりたいと存じます。

さらに今年には、自治体消防65周年となる年でありますとともに、明治27年の消防組規則制定によって、消防団の前身である消防組が全国的にスタートして以来120年目を迎えます。

これまで百年以上の間、様々な災害を経験し乗り越えてきた消防団の伝統を守りながら、消防関係者との絆を一層強く固め、市民の皆さんのご理解を得ながら、さらなる発展を遂げる年にしたいと考えております。

最後に、団員皆さんの益々のご健勝と地域の安心・安全と郷土の発展を祈念いたしまして、私のあいさつとさせていただきます。

大阪府消防表彰受章

平成25年3月24日(日)平成24年度大阪府消防表彰式が行われ、本市からも知事表彰をはじめとして多くの団員が栄えある表彰を受章しました。

【大阪府知事表彰】

○消防勤続功労章

志紀分団 分団長 小西 繁夫

○消防功労章

久宝寺分団 分団長 横山 典久

山本分団 副分団長 阪本 真人

志紀分団 副分団長 森 秀樹

【日本消防協会定例表彰】

○永年勤続章

山本分団 班長 石井 正一

○功績章

団本部 副団長 松村 康正

【大阪府消防協会定例表彰】

○永年勤続章

志紀分団 副分団長 森 秀樹

○勤続章

曙川分団 副分団長 桐山 和浩

高安分団 副分団長 植野 勇

高安分団 副分団長 田中 孝昭

山本分団 副分団長 西川 政弘

志紀分団 副分団長 森脇 和信

○勤功章

久宝寺分団 副分団長 岡井 淳治

大正分団 分団長 乾 和仁

曙川分団 部長 吉村 孝司
南高安分団 副分団長 畑中 喜幸
志紀分団 副分団長 吉内 直之
志紀分団 副分団長 山口 光宏

○精勤章

久宝寺分団 部長 吉川 明憲

久宝寺分団 班長 福田 正三

龍華分団 班長 廣岡 勝

大正分団 部長 木田 宗利

南高安分団 班長 川崎 義正

南高安分団 班長 坂上 直之

高安分団 班長 谷口 年秀

山本分団 班長 堤下 富彦

山本分団 班長 竹下 健一

志紀分団 班長 近江 弘行

【平成24年度大阪府水防表彰】

団本部 副団長 岩田 保一

長年にわたり水防に尽力した功績から岩田副団長が「大阪府水防表彰」を受賞され、大阪府西大阪治水事務所で授与式が執り行われました。



歳末特別警戒(激励巡視)

平成24年12月28日(金)から30日(日)の三日間、八尾市全域において歳末特別警戒が実施されました。

高安分団においても各屯所で、小角団長の激励の後、ポンプ積載車で管轄区域をくまなく警戒パトロールして年の瀬の防火を呼び掛けました。

また、高安分団の管轄である高安地域でも各自治会が中心となり毎年、夜警が実施されています。

子ども会の子どもたちが「火の用心、マッチ一本火事のもと」など昔ながらの呼掛けを行い、地域をあげて防災意識を高めています。

近年の八尾市の火災件数は、平成22年が48件で、平成23年は56件、平成24年は61件と年々増加傾向にあるので、各分団はより一層警戒を強め、八尾市消防団は年末最後の大仕事を務め挙げました。

高安分団 錦織 栄夫



歳末特別警戒(一人暮らし防火診断)

平成24年12月15日(土)消防本部と合同で曙川分団管轄区域内で一人暮らしをされている高齢者宅を訪問しました。

不在のお宅もありましたが、在宅の方には火の始末や健康面でも気をつけていただくよう声を掛け、とても喜んでいただきました。

中には、近所付き合いのない方やご家族の方が遠方の方など、もし大きな災害等が起こった場合にも、すぐに来れない状況だろうと考えると、我々の使命は、火災現

場での活動はもとより、消防本部、消防団、地域の方々との緊密な協力態勢を築いていくことが、より大切なことだと改めて再認識致しました。

曙川分団 桐山 和浩

健康診断

平成24年11月10日(土)消防本部において、健康診断が実施されました。

全団員の約半数の方が受診されました。

全体の判定としては、前年と基準が少し変わっており、比較は出来ませんが、やはり肝機能、血中脂質の所見を中心に、何らかの異常が見られたようです。

日々の仕事や消防活動に力を尽くしていくには、まず身体が健康でなければいけません。

この検査結果をもとに、生活スタイルの改善(食事・運動等)を考え、健康な体を目指し維持していきたいものです。

特に私は、現在の生活改善に取り組んでいきたいと思えます。

龍華分団 岡田 真一



診断結果

受診者数 145名

異常なし	8人
心配なし	13人
生活注意	6人
要経過観察	40人
要治療継続	1人
要再検	35人
要精密検査	39人
要治療	3人

分団紹介(久宝寺分団)

久宝寺分団は、分団員総数13人と少人数の分団です。

分団の活動は、毎月1日に、久宝寺地区(美園地区)の巡回及び機器の点検、放水訓練並びに定例会議を行っています。

定例会議では、月行事の確認と毎回議題を設けて、分団員全員でディスカッションを行い、スキルアップに努めています。

また、地域行事のどんど祭り、燈路祭り、好きやねん久宝寺、市民スポーツ祭等に積極的に参加し、地域密着型の消防団を目指しています。



更に、昨年の第56回大阪府消防大会(ポンプ車操法)では、北西方面隊(久宝寺、西郡、八尾、龍華)合同チームで参加し、北西方面隊で今まで以上に信頼関係を築くことができました。

今後は、久宝寺分団のモットーの「和」を保ちながら、一致団結して、より一層の消防活動や訓練に励んでいきたいと思えます。

久宝寺分団 田口 裕晃

久宝寺地区自主防災組織訓練

平成24年11月4日(日)に久宝寺小学校で、自主防災訓練が行われました。

前回に行われた訓練と同じく、避難リーダーと呼ばれる各地区の約20名の方たちが参加されました。

晴天に恵まれ屋外での、瓦礫の撤去及び要救助者に見立てた人形の救出、搬送、毛布を利用した担架の制作、また、仮設トイレの組み立てなどの訓練がありました。

屋外での訓練の後、体育館に移動し救急隊員の方によるAEDの取り扱いの指導もしていただきました。

参加者の方も熱心に取り組ん

でおられました。

また、最後に婦人部の豚汁などの炊き出しもあり、美味しくいただきました。

それぞれの訓練に参加して思ったことは、災害が起こっても最善の対処ができるように日頃より訓練し、地域との連携を高めて行くことが地元に着している我々消防団の役割であると再認識しました。

久宝寺分団 高田 卓

田口 裕晃



萱振防災訓練

平成24年11月4日(日)八尾市萱振町連合町会集会所において、萱振防災訓練が行われました。

当日、午前8時30分に町内の方々約30名、消防本部、八尾分団合わせて約20名の計50名が集

まり訓練を始めました。

集会所の駐車場で放水訓練や消火器の取扱いを本番さながらに行いました。

連続放火と思われる火災が萱振周辺で発生していたため、昨年の訓練より気迫が感じられました。

更に、集会所では毛布で簡易担架を作成したりと内容も充実し、年々地域の防災意識が向上しているの、我々消防団員も更なる防災技術の向上に努めたいと思えました。

八尾分団 山地 睦真



大正南地区防災訓練

平成24年10月21日(日)大和川大正橋下河川敷において大正南地区自主防災訓練が行われました。

当日は、田中市長をはじめ防災関係機関と地域住民約400人が参加し、バケツリレー・応急簡易担架搬送訓練、小型ポンプでの放水体験等が行われ、本番さながらの訓練となりました。



訓練に参加された男性は「物干し竿と毛布を使って簡単に担架を作れることは驚いた。非常に良い体験でした。」と語られていました。この訓練に参加して、災害が起

こつても最善の対処ができるように日頃から訓練し、地域との連携を高めていくことが地元に着している我々消防団の役割であると再認識することができました。

大正分団 木田 宗利

分団行事(ポンプ点検)

我々、消防団員として、消防団の主力機械である積載ポンプが、いざという時に使用できないと大変です。

今回、高安分団でのポンプの点検方法をご紹介しますので参考にしてください。

まず、ポンプ積載車を池の真横に部署し、吸管の先(がたる)を完全に池の中に沈め、控え綱を車面に結着し、吸水口を開け、次に車体の左右下側4ヶ所のドレンとポンプ本体のドレンが閉まっているかを確認し、筒先を吐水口に接続後、ポンプのエンジンを掛けま

す。エンジン音が安定(揚水完了)したことを確認後、放水開始。

圧力計は、0.4mpa〜0.5mpaを目安に放水後、エンジンの状態を十分に確認し放水終了。

吐水口を閉め、エンジンを止めて筒先を抜き、左右のドレンとポ

ンプ本体のドレンを開け、吸水口を閉め池から吸管を引き揚げて水抜き及びゴミ取りを行い、各ドレンを閉めた後、再度エンジンを掛け真空ポンプを作動させ吸水口レバーを開けることにより吸管に残った水をポンプ内に吸い込ませ各ドレンにより排出します。

最後に、各ドレンを閉めて屯所に戻りバッテリー充電器に繋ぎ点検を終了します。

延長ホース使用時は、十分に乾燥後、最新型ホース巻き器を使用し、従来より素早く綺麗に巻く事ができます。

こういった一連の点検を月に一度実施し、災害時に備えています。高安分団 五枝 伸浩



若なる会親睦旅行



平成25年2月2日、3日の二日間、消防団の幹部で構成される若なる会の親睦旅行として石川県和倉温泉に行きました。

一日目は、千里浜なぎさドライブウェイを観光し、冬の荒波を肌で感じ、自然の驚異を実感しました。

その後、「加賀屋渚亭」に到着し、ゆつくりと温泉につかり疲れを癒し懇親会では、諸先輩方と親睦を深め、時間を忘れて語り合い、幹部同士の絆を一層深めることができました。

有意義な二日間でした。大正分団長 乾 和仁

消防団員特別教育訓練 (上級) 幹部科

平成24年11月11日(日)大阪府立消防学校において、今年度から新しく始まった上級幹部訓練に参加しました。

午前中は訓練礼式や部隊指揮を受講しました。

これらの訓練は、目的達成のため、組織を統制していくために必要な規律と、小隊に号令を掛け、部隊をまとめ運用していく部隊指揮訓練です。

普段の消防活動においても非常に重要であり、それには自己にも厳しい姿勢で挑むことにより、信頼関係が増し、統一された組織づくりが出来ると感じました。

午後からは、幹部の心得・組織管理を学び、消防団は地域住民の最も身近な防災機関であることを再認識しました。

また組織管理・現場管理においては的確な判断力、気力、体力、事故発生時の対応力が必要で、幹部は平素から危機管理について自己啓発に努め、万一災害現場で団員の負傷事故が発生した場合の措置判断の必要性を

学びました。

消防団の活性化や市町村の消防責任の重要性等この訓練で学んだ経験を活かし、地域一丸とされる組織づくりを目指したいです。

志紀分団長 小西 繁夫



厚生事業(ボウリング)

平成24年10月27日(土)八尾市消防団厚生事業として、田中市長参加のもとボウリング大会が行われました。

当日は、15名の団員が参加し、熱戦が繰り広げられました。

今年は、各分団3名ずつ代表で分団対抗戦も行われました。

結果は次のとおりです。

- 優勝 志紀分団 山科 輝明
- 準優勝 大正分団 山内 聡
- 第三位 南高安分団 坂本 美英
- ハイゲーム
- 21点 志紀分団 山科 輝明
- 分団優勝 志紀分団

秋季消防訓練

平成24年11月20日(火)の秋季消防総合訓練(林野火災訓練)に参加しました。

まず私は、可搬ポンプを中継地点まで運び、その後、背負子を背負い火点までホースを延長し、放水始めの伝令の中継を行いました。

消防団に入団して四年が経ちますが未だ林野火災を経験したことがなく、実際に発生したらと思うと普段からの訓練に取り組む姿勢を山の麓で暮らす者として、もっと真剣に考えなければいけないと思いました。

恩智に暮らす人達が安心して生活できるように日々の訓練に励んでいきたいと思います。

南高安分団 西尾 良彦



文化財訓練

平成25年1月25日(金)八尾市本町の大信寺において文化財訓練が行われました。

大信寺は、慶長12年(1607年)、本願寺の東西分立に端を発し、昭和42年(1967年)、京都大学建築研究協会(当時)の棚橋諒博士設計による、現在の本堂、鐘楼が落成しました。

ここには、八尾市指定の文化財が数多く所蔵されています。

訓練は、午前10時から大信寺関係者、消防職員、消防団員により重要物品の搬出、大信寺内延焼想定箇所への放水訓練及び救急隊による応急処置訓練等が本番さながらの緊迫感の中、行われました。

商店街の中に隣接しているお寺なので、今回の訓練は非常に重要な訓練でした。

例年どおり寒風吹き荒む中、参加者の方々、実戦さながらの訓練にこの冬一番の寒さも、放水と共に消え去りました。

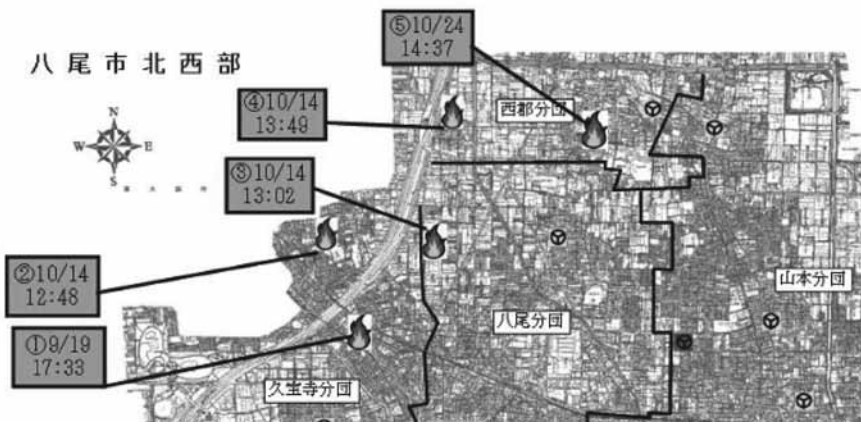
八尾市にはこのような、文化財が多く点在していますので、出来るだけたくさんの方々の場所を実施する事を望んでおります。

八尾分団 山地 睦真

連続放火に対する 消防団活動

平成24年9月から10月にかけて八尾市や東大阪市を中心に放火と思われる火災が相次いで発生しました。

この一連の火災に対する八尾市消防団の活動を紹介します。



久宝寺分団

警戒パトロール

久宝寺分団の取り組みは、まず、分団長を総責任者とし、副分団長、部長をチームリーダーとして、A、B、Cの3班を編成し、ローテーションでパトロールを実施しました。

警戒パトロールについては、必ず4人乗車することを決め、仕事の都合で乗車できない時は、団員の間で連絡を取り合い、4人の隊員を確保しました。

平成24年10月15日から10月26日までの、平日は19時から20時まで、日曜日は、火災が発生した時間に合わせて13時から14時までパトロールを実施しました。

巡回ルートについては、久宝寺地区(美園地区)でポンプ積載車が通れる道を対象にし、特に火災が発生した現場については、ポンプ積載車と徒歩部隊に分かれて、火災発生現場の周辺を重点的に巡回しました。

また、巡回後は乗車していない団員も含めて巡回したルートを確認して、巡回していない場所を優先して翌日のルートに決定しました。

火災が発生した現場は、毎日

巡回することにしました。約2週間の巡回パトロールみなさん本当にお疲れさまでした。

久宝寺分団 田口 裕晃

八尾分団

現場活動

八尾分団は平成24年10月14日の美園町地区の資材倉庫火災、10月24日の幸町地区の空家火災に出場しました。

14日の美園町地区の火災は、八尾分団の管轄外でしたが、当日は、複数の火災が発生しており、分団管轄区域の比較的近くでの火災でもあったので、分団長の判断で出動しました。

その頃、久宝園でも火災が発生しており、久宝寺分団は消火活動を実施していました。

この火災は工場の敷地内に置かれていた資材が燃えており、工場内の建物に延焼しそうな状況でしたが、素早く鎮火することができました。

延焼の危険性がなくなったので、ホース等を収納中、新家町方面で黒煙が確認できたので、続けて出動しました。

その後、西部分団も合流し、新家町での農小屋の消火活動を

実施しました。

この日、10月14日は東大阪市、八尾市合わせて5件の火災が発生しました。

この日から8日間にわたり夜間の警戒パトロールを実施しましたが、10月24日14時40分頃、西郡方面で黒煙が上がっているのを発見、予め西部分団より応援要請があったので、八尾分団3名が出動し、西部分団3名と協力して消火活動を実施しました。

今回はすべて、八尾分団の活動管轄外の火災でしたが、久宝寺分団や、西部分団の近隣分団とのコミュニケーションが上手いき、迅速な消火活動ができました。

これは、平成24年4月から9月まで北西方面隊でポンプ車操法訓練を実施し、日頃あまり付き合ひのなかった分団が半年ちかく毎週顔を合わせ、一丸となつて訓練に励んだ結果だと思えます。

今後も近隣分団と連携し、消火活動をしていきたいと思えます。

八尾分団 山地 睦真

普通救命講習

平成 24 年 7 月 8 日 (日) 福万寺公民館において、山本分団を対象に普通救命講習が実施されました。

講習内容は、八尾市消防本部職員の指導の下、前半は止血法、心肺蘇生法など応急手当の方法や DVD による講義を受けました。

後半は、AED の使用方法の説明後、実際に AED と人形を使って心肺蘇生法の実技講習を受けました。



そして、最後には普通救命講習終了証が交付されました。

今回の講習を受講して習得した救命技能を今後の消防団活動に生かしていきたいと思えます。

山本分団 樋口 徳次



遠距離送水訓練

平成 24 年 10 月 23 日 (火) 大阪府中部広域防災拠点において遠距離送水訓練が実施されました。

本訓練は、震災等によりライフライン (水道) が断絶し消火栓による消火用水の確保が困難な状況の時、自然水利を利用して約 1 km 先の火災現場に消火用

水を送水する想定で行われました。

訓練は、6 箇所のポイントごとに車両 6 台を配置し、消防署車両 4 台、消防団車両 2 台の混成が 2 回、消防署車両 6 台のみが 1 回、消防団車両のみが 1 回の計 4 回の訓練を実施しました。今回の訓練目的どおり、遠距離送水のホース延長と送水技術の向上が図れたと思います。

しかし、今後どの自然水利を利用するかや、大震災時、通行車両等による延長ホースの破裂、高低差による送水圧の減少など多くの課題が残っていると思います。

八尾分団 鈴木 卓也



● 広報部員名簿 ●

委員長

西部分団

副委員長

大正分団

山本分団

委員

久宝寺分団

西郡分団

八尾分団

龍華分団

大正分団

曙川分団

南高安分団

高安分団

山本分団

志紀分団

澤田 吉行

木田 宗利

竹下 健一

高田 卓

田口 裕晃

中川 翔太

山地 睦真

鈴木 卓也

辻村 良弘

岡田 真一

西山 孝文

杉原 弘恭

松岡 宏

松浦 洋憲

西山 博

松山 治

錦下 雄

五枝 栄夫

樋口 伸浩

井形 徳次

宮平 誠二

編集後記

皆様のご協力のおかげで無事第 31 号発刊となりました。記事の提出から構成までスムーズに進み本当にありがとうございました。

澤田 吉行